

2015年3月期 第2四半期決算内容に関する主な質問

株式会社リクルートホールディングス

連結業績について

Q：売上高は前年同期比 10.4%の増収となった一方、EBITDA は 1.1%の増益に留まった理由は？

A：売上高については、国内における求人意欲の拡大等を背景に、人材メディア事業や人材派遣事業が好調に推移したこと等により、増収となりました。一方、EBITDA の伸び率が低いのは、販促メディア事業における「SALON BOARD」（サロンボード）や「Air レジ」（エアレジ）等の IT を活用した業務支援ツールの展開や、「ID ポイント戦略」強化等の成長投資を実施したことにより、一部の営業費用が増加したためです。また、前期の第 4 四半期から、これらの成長投資を実施していることから、前期の EBITDA の四半期構成に偏りがあることも影響しております。なお、期初公表した通期見通しに対しては、順調な進捗と認識しております。

Q：通期見通しの EBITDA（1,910 億円）に対して、進捗率が 45%と低いようだが、その理由は？

A：当社の収益構造は、新卒商品をはじめとした季節性のある商品の影響等によって、通常、上期よりも下期の方が収益の比重が大きくなる傾向にあります。前期においては、第 4 四半期から重点的に成長投資を実施したことから、通常の比率とはやや異なりますが、前々期においては、上期の EBITDA 比率は通期の 44.9%となっており、今期においても同様の進捗を見込んでおります。

Q：EBITDA は前年同期比で増益の一方、営業利益や当期純利益が減益となった理由は？

A：成長投資等に伴い減価償却費が増加したほか、円安の影響によって M&A に伴うのれん償却額が増加したことが主な要因です。なお、当社においては、EBITDA（営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額）を重要な経営指標としております。

Q：為替の変動が業績に与える影響は？

A：米ドル/円のレートで、1 円円安になることで、売上高は約 30 億円増加します。なお、今期の通期見通しにおける想定為替レートは、1 ドル 103 円、上期においては、売上高で約 120 億円の増収影響がありました。

Q：第 3 四半期累計期間では、EBITDA が減益になる見通しとのことだが、その理由は？

A：新卒商品である「リクナビ」の収益計上時期が、前期は第 3 四半期であったものの、今期は第 4 四半期に変更となることに加え、前期の第 4 四半期より開始した成長投資を、継続的に実施していることが主な要因となります。なお、第 2 四半期までの順調な業績進捗に加え、第 4 四半期において、前年同期比で増益となる見通しであることから、期初公表した通期見通しに変更はありません。

セグメント別業績について

■ 販促メディア事業

Q：売上高は前年同期比 3.3%の増収となった一方、EBITDA は 4.4%の減益となった理由は？

A：主に、日常消費領域において、「SALON BOARD」（サロンボード）や「Airレジ」（エアレジ）等の IT を活用した業務支援ツールの展開を強化したことにより、一部の営業費用が増加したため、EBITDA は減益となりました。

Q：ライフイベント領域において、前年同期比 0.4%の減収となった理由は？

A：住宅分野が前年同期比 4.5%の減収となったためです。住宅分野では、戸建や中古マンション、賃貸部門等の売上高は好調に推移している一方、新築分譲マンション部門が消費税率引き上げ前の駆け込み需要からくる反動減の影響等を受けて低調に推移しており、第 3 四半期以降も同様のトレンドとなる見通しです。

■ 人材メディア事業

Q：売上高、EBITDA ともに増収、増益と好調に推移している背景は？

A：求人意欲の拡大を背景に、国内人材募集領域が好調に推移したほか、海外人材募集領域においても、中小クライアントの当社サービス（Indeed）の利用が引き続き拡大いたしました。なお、第 3 四半期以降、海外人材募集領域は引き続き堅調なトレンドを見込んでおりますが、国内人材募集領域では、なだらかなトレンドで推移する見込みです。

Q：増収、増益のトレンドの中で、EBITDA マージンがやや低下している理由は？

A：主に国内人材募集領域のパート・アルバイト分野において、一部機能のアウトソーシング化など、営業体制の見直しを行ったことに付随して、一時的に営業費用が増加したためです。

■ 人材派遣事業

Q：売上高、EBITDA ともに増収、増益と好調に推移している背景は？

A：国内派遣領域、海外派遣領域ともに、市場環境の緩やかな回復を背景に、好調に推移いたしました。また、海外派遣領域においては、当社の強みである効率的な経営も進展しており、EBITDA マージンの改善が進んでおります。

■ その他事業/調整額

Q：その他事業の EBITDA のマイナスが拡大している理由は？

A：当セグメントには、「ID ポイント戦略」の費用を計上しており、前期の第 4 四半期から当戦略を強化しているためです。

Q：調整額の EBITDA のマイナスが拡大している理由は？

A：調整額には、主に全社スタッフに係る費用を計上しておりますが、IT 戦略の強化に連動して、セキュリティ対策費用や IT 人材の採用、育成費用のほか、一時的に公開関連の費用が増加したためです。

以上

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。